

れた時本誌上で地學的に説明されるであらう。

○八重山列島の海底噴火 大正十三年十月三十一日午

後六時十五分中央氣象臺に入電した報告によれば大阪商船會社汽船宮古丸が那覇基隆間を航行中北緯二十四度二十四分、東經百二十三度五十一分の地點より北北東約十二海里の地點に海中火山噴火を發見した。噴火現象は海水の沸騰、混濁及び懸石の噴出に依つて現はされる程度の小噴火で短時間の噴火で消滅したらしい。惟ふに此の火山は霧島火山帯の最末端とも考へられる處の臺灣北部の火山群中の一小支脈の活動と解される。

○日本海々底の大半島 四月二十四日以来六ヶ月間日

本海々底測深をつゞけて居た特務艦「大和」は能登半島と略同形にして二百五十尋の深を保ちつゝ、北東進して居る處の海底の大半島を發見した。

又朝鮮咸鏡北道清津、雄基一帶の海底に礫土が沈積して居ることも發見された。此れ等の事實は水路部から詳細に發表さ

○露西亞の新地名 勞農政府は最近次の如き地名の變更を企てた。

舊名	新名	地方
ヤルタ	Krasnoarmeisk	クリム
ユーパトリヤ	Quesleve	同
セヴストポール	Alkhar	同
シムフエロポール	Akmeshet	同
フエオドシア(テオドシア)	Kele	同
アレクサンドロウスク	Saporshye	ドニエプル沿岸
エカテリノダール	Krasnodar	クバン地方
テミル・ヒヤン・チュエラ	Painak	ダゲスタン
ペトロウスク	Makhsh-Kola	同
ヒリガ・ウエトポール	Gandya	アシエルバイツヤン
アレクサンドロポール	Gymri	アルメニア
アシヤバット	Polotski	トランスカスピアン

スゴペレウ  
 ウルサチエフエスグ  
 シンピルスグ  
 ハンスカヤ・スタフカ  
 ペトログラード(ペテルスブルグ)  
 ヤムブルグ  
 ペテルホーフ  
 ガツチナ  
 クラツスノエ・セロ

Fergana  
 Chavast  
 Leninsk  
 Urala  
 Leningrad  
 Kimsisep  
 Leninsk  
 Tyokoye  
 Krasnyi

フェルガナ  
 ハヴスト  
 レニンスケ  
 ウルダ  
 レニングラード  
 キンギシエツブ  
 レニンスク  
 トロツコエ  
 クラスニキ

トルキスタン  
 同  
 ゴオルガ地方  
 キルギスタン  
 インゲルマンランド  
 同  
 同  
 同

**○葡國の激震** 獨逸ナツエン發國際通信の電報によれば本月初テホー河口のリスボン府から上流約五十軒のサルブワテラ・デ・マゴスといふ都邑に一大激震が起つて、一七五〇年の大地震の苦い經驗を有する葡國首府でも人心恟々たりといひ、現場は家屋倒壊したといふから近來珍らしい激震で前世紀に有名なアンダリユシアの地震の如く追つて激震の稀れな歐洲地學者が研究して精細な報告があるであらう。(小川)

**○世界の生糸と其産額** は専ら推定に依るの外なく一九〇一年度は總計一萬九千噸に過ぎざりしが最近凡三萬三千噸に増加したり。歐羅巴諸國の産は年額五千萬噸にすぎず、之に反して東南亞細亞は産額二萬七千噸の多きに達し、この内日本よりの輸出量一萬八千四百四十噸にして國內消費八千噸に及ぶ支那は今日に於ては其自國消費量を合すれば尙日本の倍額を生産すとの事なるも、大部分を自國內の消費に用ひて生糸市場に出

でされば、假令日本の産額が支那に劣るゝするも其輸出額は支那の二倍半以上に達する現狀なり。歐洲にては伊太利が第一位にありて年額約四千五百萬噸なり以上を重要生産國とし尙生産國あるも其額何れも大ならず、例へば南高加索、シリヤ、キプロス、露國、佛國、英領印度、バルカン諸國、波斯、土耳其、暹羅、朝鮮及び西班牙の如きこれにして最近新聞紙の報する所にては、米國南部にて養蠶を試み成功したるものありとの事なるが其の産出は將來の事也、従つて主たる生糸消費國の需要に對して重要供給國となるものは日本、支那及び伊太利にして、輸出に就て一八九〇年迄は伊太利が有力なる地位にありしが、其後支那に凌駕せられ一九〇一年及び一九〇五年平均に於ては日本の輸出は尙二割三分支那に劣りしが一九一三年には既に三割八分、一九二二年に於ては十三割一分支那の輸出を凌ぐに至りたり、又絶對數量に就て云へば一九一〇年乃至一九二二年に亘

り日本の生糸輸出額は倍加し、之に反し伊太利の輸出は一九〇六年の一萬噸を全盛時代として減退せる也。其輸出先は米國第一にして一九二二年度には二萬三千噸、佛國は七千噸、獨逸は一六六千噸を消費せり、即ち米國を第一位に置かざるべからず、これ従來絹物の消費は替澤させしに現在の米國にては右製品を普通消費物と見做すに至りたるによるなり。

### ○デカストリー港灣の價値

デカストリー港が露領大平洋岸の要津たる事は夙に識者の認むる所にして帝政時代に於ても之が築港完成の上、奥地へ鐵道聯絡の便を計らんとの議は再三唱導せられ來りたる次第なすが同地地方近くには極東露領の資源たる大森林乃至テチュー一帶の鐵鑛鉛鑛等の富源散在し烏蘇里沿線地方の伐採事業が逐年搬送區域距離と成行く現状より、森林鑛業の開發は最寄に是等の集散地を求むる必要に會しデカストリー港灣の施設は漸く其必要を認められるもの、如く若しデカストリー港よりキツ湖を横斷して黑龍江沿岸のソフイスクに至る鐵道敷設の曉には黑龍江と太平洋沿岸の連絡は非常に距離に於て短縮せらるゝのみならず對外貿易も尼港經由によるものよりも遙に利便を齎らす點多く、従來は尼港の繁榮を奪ふ恐ありきで、この港の價値を認められながら何等積極的發展策講ぜられざりし嫌ありしが、尼港の慘禍以來同地の價値は著しく低下し、一方デカストリーの開發は將來の利源開發にも利する所多しとの世論もあり茲に尼港かデカストリーかの問題の議論の域を脱し實行の域に入りたる感なき能はず、按ずるに尼港は將來漁業の重要基點として殘るべき運命を有し、又浦揚斯德

の價値は東亞連絡乃至北滿貨物の通過仲繼地として將來に望めすべきも沿海州富源開發の先驅を爲す爲にはデカストリー港灣の施設完成と此地の起點とする水陸交通の便を開くを要するこゝ勿論にして同港の將來に就ては對岸貿易の關係上本邦人に取つても重要な價値を生じ來るべしと思考せらるゝ、而して極東産藥局は目下キツ湖よりの鐵道を敷設し同港完成の企圖中なりといふ。

### ○山東の葉煙草

本年山東坊子地方の米種葉煙草は前年に比し六分作見當なり、等し昨年作柄良好にして、且價格も比較的割高に、其收入は他農産物に比し良好なりしたため、山東の農民は極力其植付を行ひ、作付反別は五割増即一萬二千二百餘町歩に達せり、然るに植付後の天候不良のため、反別の三割は廢作し其霖雨は十月後全く歇みたるも、其後旱天にて降雨らしきものなく却つて煙草の伸張を妨げたりば收穫量の減少止を得ざるなり、されば相場もや、高く邦人經營の各煙草會社は組合協定の下に左記の各所を根據としてなす、買付準備に怠りな

しといふ。

邦八各會社買付地名	蝦蟇屯	山東葉煙草會社	坊子
米星煙草株式會社	坊子	中國葉煙草	坊子
山東産業會社	濰縣	東洋葉煙草會社	濰縣
南信洋行	坊子		
中裕公司	坊子		

外國人の經營せる各煙草會社中英米トラストは、青島に菸煙草製造工場を新設する等、益々發展の勢を示めし、本年も一層

何年以上の買占を行ふべし、但し本年は膠濟鐵道輸送貨物に對する買捐稅徵收問題あり、其解決困難なるに、銀も高く、烟草買付當業者に取りては厄年とも申べき年なり本年山東の收穫反別見込は八千五百四十七町、一反當二十二貫として總量一八八〇、三四〇貫に達する由也。

○雲南の苧莖玉 本邦の苧莖玉に類似し雲南にて苧莖と稱せらるゝものは天南星科に屬する多年生野生草本の株根なるが、其實堅く中を割れば褐色の液物を多量に包含し、一塊の重さ二斤乃至三斤あり、本品は我が柿澁と同様着色並防雨に用ひられ、防腐作用を有し、又着色容易に剝脱せざる特長あり、雲南省産は多く安南人の染料に使用せらるゝも、現時海外に在りては工業用塗料にして飛行機翼其他の製品に使用せられ歐米方面の輸出品としても將來極めて有望なるもの、如し、本品は佛領東京の山中到處に在り、雲南の産地は東京に接觸せる國境地方及紅河沿岸の山中にして就中河口、大樹糖、白梁附近に多し。毎年七月より翌年三月頃に亘り、同地方の土人が隨意山中に入りて採集し之を河口、大樹糖、白梁等の市場に持ち來り、支那人、安南人等の仲買人に賣渡す、同地方の取引は總て生物にして干したるもの無く、百斤の相場三元内外なり、斯くして買収されたる苧莖は仲買人の手に依り滇越鐵道にて佛領河内市場に搬出し、同地にて安南人間に取引せられ又は海南島の海口等に輸出せらるゝもの尠からず、是等の苧莖は何れも上述の如く南支那人安南人若くは海南島人の夏着木綿又は絹の染料と爲り、炎暑烈しき同地人等に取り極めて適當なる衣服の原料に供せられ且

殆んど其代用品なきを以て販路極めて確實なり、即ち上海邊にては夏日黒色の光澤ある袴を着用する男女多く布に澁などをかけたたるやうに見ゆ、これ實にこの染方によるものならん、汗じみたる時は水につけて乾かすのみ、之を揉み洗ふことなし。色黒けれども涼しげなり。

### ○兩阿蝗虫の利用

南阿には蝗蟲極めて多く、是れが爲め農作物等の受くる損害は甚大にして、是が驅除に對し年々少

からざる費用と努力とを費やしたるが、最近歐洲にては是より飛行機用油の製造行はれ、南阿よりは是が輸出を見るに至れり。ケープマウン鐵道局公報によれば最近八十八隻約十八噸の驚くべき多數の蝗は、飛行機用油の製造原料として和蘭へ向け輸出せられたり。蝗虫より採取し得らるゝ油の分量は割合僅少なれども該油は特殊の成分を有し非常なる高温度に於ても流動性を保持するを以て飛行機の發動機用としては好適なりといふ。

○北亞細亞に於ける恐龍 亞米利加博物館の遠征隊によつて蒙古で多數の恐龍が発見されたことが世界の視聽を惹きつゝ、あるがシベリアにも亦恐龍の化石を産するに云ふことである。嘗ては露西亞本國でも恐龍は知られて居らず、恰も愛蘭に蛇が居ないことの様にも不思議であると言はれて居つた。然るに其後オレンブルグ州や露西亞の東北部に恐龍のあることが知れて來た。次いでシベリアからも判つて來たので其の産地は次の二箇所である。一はトランスバイカル地方タルバガタイ (Taldagatay) 炭山で褐炭層の上の粘土層から出た。これは *Alousaurus* (?) *shibaniensis* とされて居り時代は上部侏羅紀である。他の産地は黒龍江に近き處でこれは日本に來てゐたことのあるクリストホザイツナの發見に係ると云ふ。